

## 市立図書館の時代があった「旧崇廣堂」

上野市街地の良さを

知った史跡めぐり



さわやかな秋風の中、東部地域住民自治協議会教育文化スポーツ部会の主催で、旧市内の史跡を巡るウォークに30名が参加、観光ボランティア「いがうえの語り部の会」の百上・橋本両氏の説明を受けながら約6kmのコースを散策しました。

まず東部公民館前で半田部会長の挨拶の後、芭蕉5庵の中で現存する蓑虫庵を訪れました。芭蕉を慕った服部土芳が元禄元年に草庵「蓑虫庵」を開いた話、芭蕉が故郷に帰った際、脱ぎ捨てたわらじを土芳がもらい受け塚にした『わらじ塚』や供養墓の他、芭蕉の代表句《古池や蛙飛びこむ水の音》をはじめとする句碑や大津市の義仲寺「翁堂」にならひ建立された『芭蕉堂』など、始めて庵の中へ入り見せていただきました。次に北へ進めると、しだれ桜で有名な心念寺、レトロ看板「座頭市逆手切り」が醸し出す昭和の雰囲気風呂屋「一乃湯」が在りました。

中之立町を北へ武家屋敷の前を通り、福居町の辻に伊乱記（天正伊賀の乱の説話）などを記した「菊岡如幻旧宅跡の碑」を見、次に昨年市へ寄贈された初代上野警察署の明治建築「北泉邸」、荒木又右衛門の仇討の鍵屋の辻、昭和59年まで、市立図書館としても利用されていた藩校「旧崇廣堂」を見学、赤門と呼ばれているベンガラ塗りの通用門に入る。奥の講堂の懸額は旧米沢藩主の上杉鷹山の書であることを知りました。

俳聖殿前の藤棚の下でお弁当をいただき、相生町の武家屋敷入交家から寺町へ、藤堂家墓所のある「上行寺」、伊賀の社会基盤を整備した田中善助翁が眠る「大超寺」と案内していただきました。

普段、何気なしに見ている史跡の歴史を語り部さんの詳しい説明を聞きながら地元に住んでいても知らないことが多くとても有意義な一日となりました。

〈取材：猪田 勉〉

# 楽しかった部会事業

～心と力をひとつに～

Photo  
Album

## ◆健康体操



## ◆田中校長の人権講演会



## ◆山辺の道ウォーク



## ◆木曾三川公園と輪中見学



## ◆スポーツ大会 (24年度)



参加者延べ1,400人。来年度はぜひあなたもご参加を!

◆新鮮市



(24年度)

◆スタンプラリーとネイチャークラフト



◆防災訓練



◆ニュースポーツ講習会  
(ユニカール)



◆クリーンウォーク



◆体力測定



◆林家染太の人権落語





## わが町 北平野

# 生まれ変わった町をめぐりのある町に



堂山敏夫 自治会長

平成9年から着手した上野北部地区土地区画整備事業により様変わりしたわが町北平野。それまでは平野蔵垣内、平野井地下、平野樋之口、平野六反田、平野上田などの字がありました。現在、その名を一部残しながら新しく平野東町、平野西町に編成され、通称「北平野」として自治会を運営しています。



▲旧街道の面影を残す町並み

昭和の初めまでは街道として栄え、三田、府中、佐那具や遠くは阿山の人々が服部から当地樋之口を通り、上野の町へ上がって行きました。その当時は35軒ほどの集落で石屋、酒屋、畳屋、鍛冶屋、米屋、唐鋤屋などが連なり、また広大な農業地域でありました。現在の三田四十九線や印代農人町線もなく、バスが通るメイン街道でした。



▲新しい町並み

### 若者の町

平成19年、10年の歳月を経て長閑な田園風景が一変。今や病院通りとも称される白鳳通りを中心にコンビニ、食堂レストラン、薬店、めがね店、衣料品店など日常生活に事欠かない店が立ち並び豊かな土地環境の市街地が誕生しました。

新しい住宅が次々と建ち、今や世帯数530世帯、人口1,275人と増え、特に若者の流入が目覚ましい。それに伴い小学校児童数も約110人と急増しています。また矢谷川の整備に伴い、周辺には桜並木やいこいの公園、広場があり、住むには本当に良い環境に恵まれています。



地区活動としては、年一回の「町内会一斉清掃」、「親睦バス旅行」で友好を深めています。約20年続いている「書道クラブ」、「手芸クラブ」があり、最近では「バードゴルフ」にも活動を広げています。

今後私たち住民は若い力を結集しエネルギーな新しい町、近隣との絆を深め、新旧ともども真の住みよいめぐりのある街づくりを目指していきたいと思っています。

◀親睦旅行：京都水族館にて



子ども会シリーズ ①

## 緑ヶ丘東町子ども会

### 「仲良く・楽しく」を合い言葉に

緑ヶ丘東町子ども会は、昭和45年頃に自治会の一部として活動し始めました。当時は、自治会の役員さんが会長などを兼務していましたが、50年代には自治会から独立し、子育て世代の親が会を運営していくようになりました。

30~40人程度の子どもたちと役員数名の活動で、海水浴やバス旅行、野外キャンプや七夕祭りなど、さまざまな行事が行われていました。当時は公民館としての建物は無く、市営住宅を借りていたため、そちらで映写会を行うこともありました。当時をよく知る方は「その頃は県外から転居してこられた方も多く、子ども会を通して親同士の交流も深めることができました」とおっしゃっていました。

その後およそ40年が経過し、現在の会員数は59名。市内の卓球大会や球技大会への参加、夏休みのラジオ体操を実施する他、7月に行われる自治会主催の「大人と子どものふれあい会」にも参加しています。地域の方々とグラウンドゴルフや昔の遊びを楽しみ、焼きそばや綿菓子、ポップコーンやかき氷などを一緒に頂きます。



また、9月には敬老会にも参加し、日頃から交通指導やパトロールなどでお世話になっていることへ感謝の気持ちを込めて、合唱のプレゼントをしています。クリスマスにはボウリング大会、六送会にはスケート大会などを企画し、3月末には一迎会として公民館でゲームや昼食を一緒に楽しむ予定をしています。

### 学年を越えたつながり

近年の会長さん方に子ども会の良さを尋ねたところ「子どもたちは学年を越えた繋がりが出来ることで、お互いを思いやり助け合う気持ちが芽生えます」「さまざまな行事において、高学年の子どもたちが低学年の子どもたちをお世話してくれる姿に感心しています」「子ども同士が仲間意識を持ち、地域の方々に感謝する気持ちも育むことが出来ると思います」などおっしゃっていました。

同町は、最近新しい住宅地が出来たことで、子どもの人数も増えつつあります。今回の取材を通し、これからも子どもたちが安全で安心できる環境をつくり、また子ども会行事を通して仲良く楽しく過ごせるようにすることが、私たち大人の役割であると感じました。

取材: 佐山雅代 (同町在住)



# 東部地域住民自治協議会

〈スローガン〉「安全」「安心」で快適なまちづくり

## 「地区市民センター」の新築を再度申し入れ



2月7日には情報経済科棟の視察を行いました。地区市民センター建設要望（改修・新築）の方針を決める運営委員会で出された主な意見は、次の通りです。

- ①築25年は経ってはいるものの既存施設の有効利用の面、また、一般常識的に考えてもこの物件を取り壊し新たに建設するのは難しいとの市の見解は理解できる。
- ②建替えの絶好のチャンスを逃がすことなく再度新築で交渉を押し進めてほしい。

③情報経済科棟は、震度6強の地震に耐えることができる耐震があるのか？数値の公表をしてほしい。

各委員から出された意見を踏まえて、2月26日辻上副市長に「再度地区市民センターを新築でお願いしたい」と申し入れをしました。

辻上副市長は、「住民自治協の意見として真摯に受け止めていますが、前回出した回答は庁内関係部署と協議をして、不動産の評価も高く、既存施設の有効利用の面からも取り壊して新たに建設することは難しい。また、ご指摘の耐震についても県が工事した建物、地質も防災の拠点である消防本部の移設場所である事も踏まえて県に確認を改めてしませんが問題がないと確信しています。改修工事については、皆さんの意見を取り入れ利用しやすい良いものを作って行きたいと考えています」と回答があった。

申し入れは平行線で新たな進展はなく、検討委員会は新築ではこれ以上の進展は望めないので、地区市民センターの建設要望の交渉方針を運営委員会にゆだねたいと意見が一致しました。

（事務局長：小西也人）

### 編集後記

学校訪問シリーズは26号で終了し、今号からは、新たに未来を託す子ども育成への取り組みとして子ども会を取り上げました。各地区の活動を順次取り上げて行きたいと思っています。

ソチ五輪で栄光に喜ぶ選手、片や実力を出し切れずに敗退する選手など数多くの感動物語を残しながら幕を閉じました。中でも、前日の失敗から見事立ち直った浅田真央選手の喜びはいかばかりだったでしょうか。

五輪に気をとられている間に、秘密保護法案は多くの弁護士の先生方も人権に関わって懸念しておられる中身のおようす、日本国憲法の9条は平和の砦だと思っていたら、時の最高権威者によってどうにでも解釈できる存在であるとは知りませんでした。また、学校教育についても教育委員会制度の見直しに手をつけています。国の右翼的と思われる傾向は米国を始め外国も懸念しているようです。日本国憲法をもう一度読み直して勉強してみようと思いました。

（2/25記 田山干城）